

しぶや おすすめの本50 2023

せかい し
世界を知る

ねんせい
5・6年生のみなさんへ

*・・・2023年にあたらしく入った本

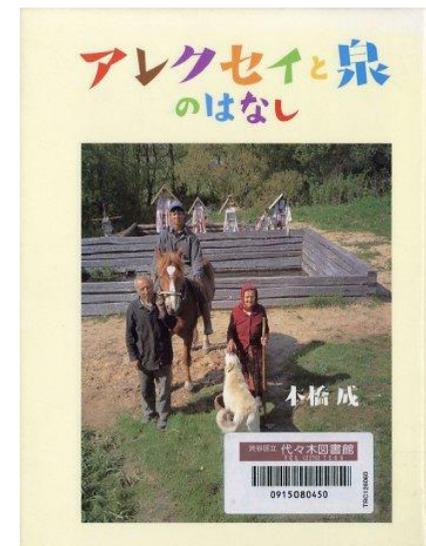
「しぶや おすすめの本50」2023は、「世界を知る」をテーマに本をえらびました。
「世界を知る」とは、広い世界の新しいできごとを知ることだけではなく。
あなたのまわりにいる人たちの考え方や価値観を知り、昔から受け継がれてきた習慣や話を知り、「世界を知る」ことのひとつです。世界は私たちの知らないことでいっぱいです。

あなたの世界を広げてくれる、すてきな本に出会えることを願っています。

アレクセイと泉のはなし

もとほし せいいち
本橋 成一
アリス館

1986年4月26日、チェルノブイリ原子力発電所が爆発事故を起こした。その近くのぼくの村は見えない放射能で汚されて、住んではいけないんだって。たくさんの人が村を離れたけど、ぼくの家族は今もこの村に住みつづけている。どうしてかっていうと…。



うちにあかちゃんがうまれるの

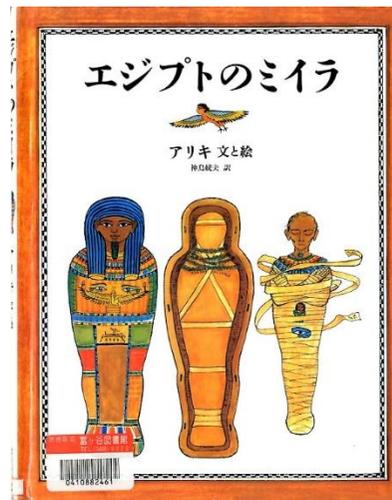
いとう えみこ 文 / 伊藤 泰寛 写真
ポプラ社

6歳のまなかの家に赤ちゃんが生まれることになりました。助産師さんに赤ちゃんの心臓の音を聞かせてもらおうと、トクトクトクトク…。赤ちゃんが生まれる日、まなかは走って家に帰りました。新しい家族はお家で生まれるのです。



エジプトのミイラ

アリキ 文と絵／神鳥 統夫 訳
あすなる書房



ミイラとは、からからに乾いて腐らなくなった「なきがら」(死んだ人の体)のこと。古代エジプト人は、死んだ人の魂が帰ってくる体を残すためにミイラを作りました。この本を読めば、古代エジプトのミイラの作り方がわかります。

エリカ 奇跡のいのち

ルース・バンダー・ジー 文
ロベルト・インノチェンティ 絵／柳田 邦男 訳／講談社

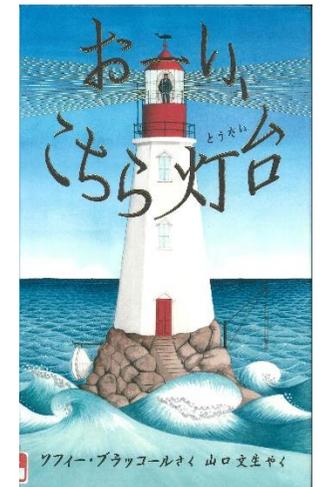


「お母様は、自分は“死”にむかいながら、私を“生”にむかって投げたのです。」第二次世界大戦中、ヒットラーによってたくさんのユダヤ人が殺されました。そんな中、強制収容所に向かう列車から一つの幼い命が、母の必死の願いをこめて投げられたのです。

* おーい、こちら灯台

ソフィー・ブラッコール さく／山口 文生 やく
ひょうろんしゃ 評論社

灯台がまだ機械ではなく人の手で動いていたところのお話です。灯台守は毎日ランプに油をつぎたし、レンズをみがき、時には事故に遭った人たちを助けます。灯台の中だけで暮らしてはいますが、とうとう機械仕掛けの新しいあかりがくることに…。



オオカミ王 ロボ (シートン動物記 より)

アーネスト・T・シートン 文 絵
いまいずみ よしはる やく かいせつ どうしんしゃ
今泉 吉晴 訳 解説／童心社



どのオオカミよりも大きく、かっこいいオオカミ王・ロボは、人間がしかけるわなをかわしながら、緑あふれるクルンパの谷で仲間と共に暮らしていました。ロボの退治を頼まれたシートンは、行動を観察し、その姿を記録していきます。



おお
大きなたまご

オリバー・バターワース 作 / 松岡 享子 訳
岩波書店

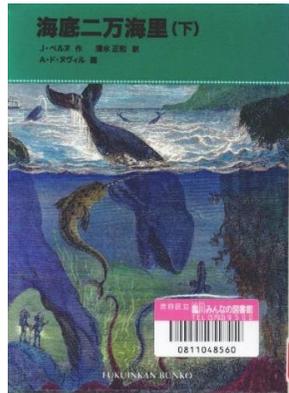
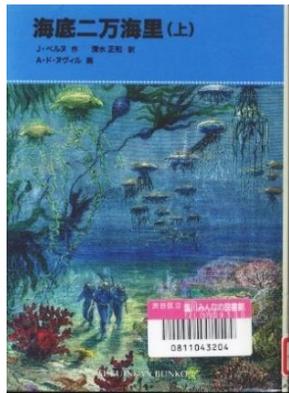
ネイトが住んでいるのはニューハンプシャー州の田舎町。ある朝、飼っていた鶏が大きな卵を産んだ。大事に大事に世話をした卵から生まれたのは、誰も見たことがないあの生きものだった。噂はたちまち広がり、アメリカ中を巻き込んで大騒動に！



かぜ
風に乗ってきたメアリー・ポピンズ

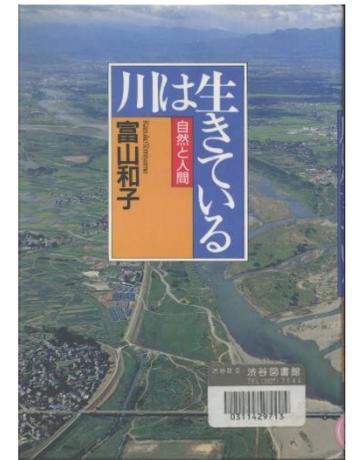
P. L. トラヴァース 作 / 林 容吉 訳
岩波書店

東風の吹く日に、傘につかまって空からやってきたナニー（子どもの世話係）のメアリー・ポピンズ。彼女は厳しいけれど魅力的。魔法としか思えないことを次々にやってみせ、子どもたちを不思議な冒険の世界へ連れて行きます。



かいていにまんかいり
海底二万海里

J・ベルヌ 作 / 清水 正和 訳 / A・ド・ヌヴィル 画 / 福音館書店
潜水艦ノーチラス号の艦長ネモと、ネモに捕われた生物学者アロナックス博士、鋳打ち名人ネッドが神秘的な海底散歩、南極点への到達、そして巨大なタコとの壮絶な闘いなどの冒険を繰り広げます。



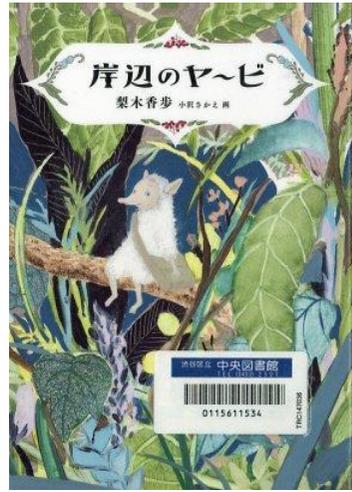
かわ い
川は生きている 自然と人間

とみやま かずこ
富山 和子
講談社

日本人は昔から、川と上手につきあいながら生きてきました。私たちの生活と深いかわりを持っている、水、緑、土、それらは川とつながっているのです。川の歴史や川との戦いから、川との結びつきまでが描かれています。

きしべ
岸辺のヤービ

なしき かほ おざわ さかえ え
梨木 香歩 / 小沢 さかえ 画
ふくいんかんしよてん
福音館書店



みなさんはクイー族をご存知ですか？カヤネズミほどの大きさで、直立二足歩行をし、ハリネズミのように顔にだけ毛がない、あのクイー族です。ご存知ない？それでは、この夏、私が出会ったクイー族の男の子、ヤービのことをお話ししましょう。

ぎん くに
銀のほのおの国

かんざわ としこ さく ほりうち せいいち え
神沢 利子 作 / 堀内 誠一 画
ふくいんかんしよてん
福音館書店



ずっと昔から、たかしの家の壁に飾られていた剥製のトナカイ。「いざ、よみがえれ！」と冗談で言ったその時、たかしとゆうこの兄妹は、壁の向こうがわに広がる異世界にひきずりこまれてしまった！

くがつひめ
* 九月姫とウグイス

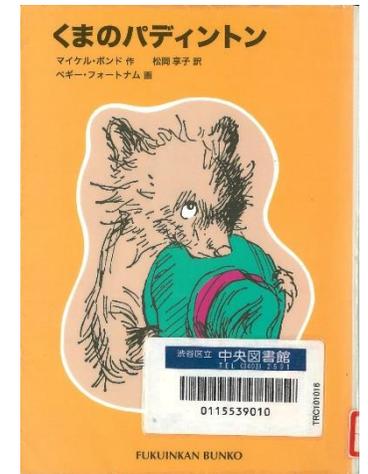
ぶん サマセット・モーム / やく 光吉 夏弥
え たけい たけお いわなみしよてん
武井 武雄 / 岩波書店



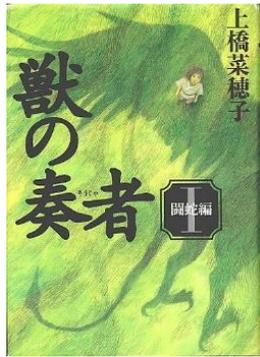
昔、シャムの国に生まれた末のお姫様「九月姫」は、美しい声でさえざるウグイスと仲よくなります。けれども、ひねくれた姉妹たちに、そそのかされて、自由に飛んで歌っていたウグイスを金の籠にとじこめてしまうのです…。

* くまのパディントン

マイケル・ボンド 作 / 松岡 享子 訳
ペギー・フォートナム 画 / 福音館書店



パディントンはペルーから移民してきたくま。ブラウンさん一家のおうちに住むことになったけれど、都会のロンドンでの生活は初めての連続！おふろ、百貨店、どこでもいつもトラブルが。ママレードが大好きなくまのパディントンのお話です。



けもの そうじや 獣の奏者 I 闘蛇編 II 王獣編

うえはし なほこ 上橋 菜穂子 / 講談社

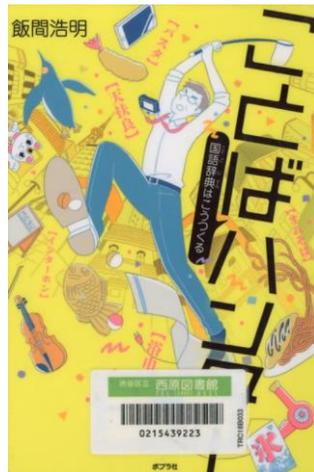
エリンは、戦闘用の獣「闘蛇」の世話をする集落で暮らしていた。母は獣の医術師であったが、闘蛇が大量死したことで責任を問われ、処刑されてしまう。ひとりぼっちになったエリンは蜂飼いのジョウンに助けられ、いろいろなことを学んでいく。

ことばハンター

こくごじてん 国語辞典はこうつくる

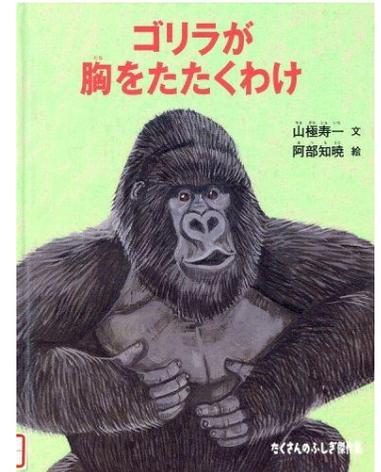
いいま ひろあき 飯間 浩明 / ポプラ社

人と人は、「言葉」によって分かり合うことができる。分かり合うためにどんな言葉を使うか、困ったときに役立つのが「国語辞典」。では、国語辞典がどうやって作られているのか…きみは知っているかな？



ゴリラが胸をたたくわけ

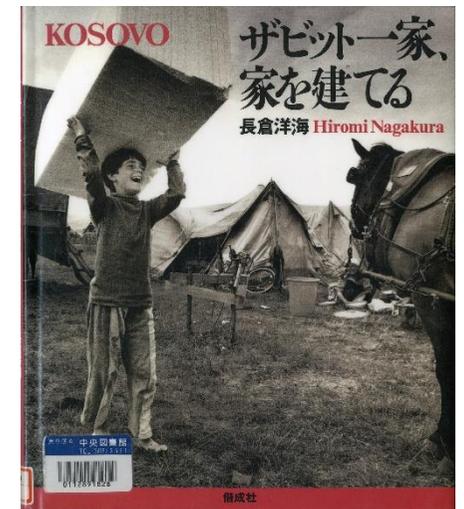
やまぎわ じゆいち 山極 寿一 文 / あべ ちさと 絵 阿部 知暁 福音館書店



ゴリラが自分の胸をたたくドラミング。敵をおどし、戦う合図と思われていたせいで、ゴリラは凶暴な動物だと印象付けられました。でも実際は、ドラミングには違う意味があったのです。平和を愛する穏やかな動物、ゴリラの秘密を探ってみましょう。

ザビット一家、家を建てる

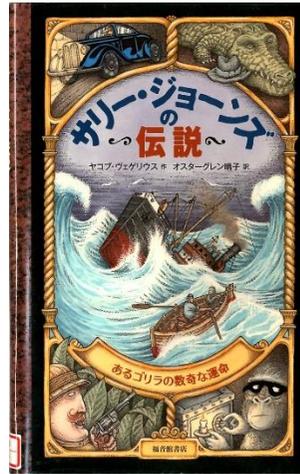
ながくら ひろみ 長倉 洋海 偕成社



戦火をのがれて山にかくれ住んでいたザビット一家は、故郷の村へもどってきました。みんなで手作りする家が建つまでは、9人家族がトラックの荷台で仮住まい。写真家の長倉洋海さんが家族の生活を見つめました。

サリー・ジョーンズの伝説

あるゴリラの数奇な運命



ヤコブ・ヴェゲリウス 作/オスターグレン 晴子 訳/福音館書店
嵐の夜に生まれたゴリラの女の子。群れの長老は、生まれた子が数々の不幸に見舞われるだろう、と予言した。その予言どおり、ゴリラの女の子はジャングルから遠く離れた地に連れて行かれ、様々な運命に翻弄される。

ジャガイモの花と実

板倉 聖宣 著/藤森 知子 絵
仮説社

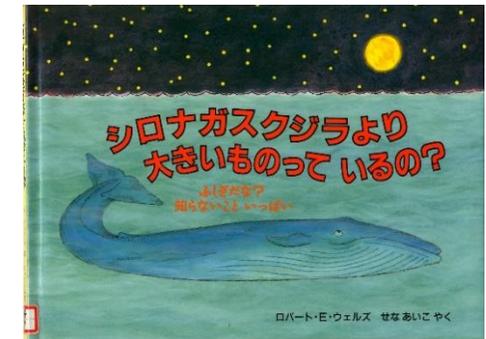


ジャガイモにも花が咲き実がなるのを知っていますか。花と実の役割を知ることが手掛かりに、自然のしくみと科学のすばらしさが学べます。身近な植物のしくみから、ダーウィンの考え方まで、物語を読むように科学の知識を得ることができます。

* シリアからきたバレリーナ

キャサリン・ブルートン 作
尾崎 愛子 訳/平澤 朋子 絵/偕成社

内戦中のシリアを逃れてイギリスへ渡った11歳のアーヤ。難民救済センターに通っているとき、同じ建物内にバレエ教室があることを知ります。アーヤは、ここで友だちや先生のミス・ヘレナと出会い、踊ることで生きる力を取り戻していきます。



シロナガスクジラより大きいものっているの？

ふしぎだな？知らないこといっぱい

ロバート・E・ウェルズ/せな あいこ やく/評論社
シロナガスクジラは地球上で最大の生き物。だけど、エベレスト山の中が空っぽだったら、その大きなシロナガスクジラが100頭入ったビンが100万個入るんだ。大きいものをどんどん探していくと、宇宙の大きさまでたりつくよ！

せかい いちばん おく
世界で一番の贈りもの



マイケル・モーパーゴ 作 / マイケル・フォアマン 画
佐藤 見果夢 訳 / 評論社

がらくた屋の店先で、壊れたロールトップデスクを手に入れたぼくは、秘密の引出しの中から手紙を見つけた。その手紙には、第一次世界大戦の最前線でジムという兵士が体験した、心温まるクリスマスの出来事が記されていた。



せかい うご しょ ものがたり
世界を動かした 塩の物語

文 マーク・カーランスキー / 絵 S. D. シンドラー
訳 遠藤 育枝 / BL出版

毎日口にする塩。塩がないと人間や動物は生きていけません。今では塩分の取りすぎを注意されたり、安く売られている塩ですが、昔は塩で給料が支払われたり、塩のために戦争が起こったりしました。長い長い塩の歴史を紹介します。

セコイア

世界でいちばん高い木のはなし

ジェイソン・チン 作 萩原 信介 訳



せかい たか き
セコイア 世界でいちばん高い木のはなし

ジェイソン・チン 作 / 萩原 信介 訳
福音館書店

北アメリカにはえるセコイアは、とても高くのびる木。30階建てのビルの高さに成長する木もあります。また、セコイアはとても長生き。2千年以上も生きています。さあ、きみもこの本をひらいて、セコイアの林へ迷い込んでみよう！

さんになぐみ
それいけ ズッコケ三人組

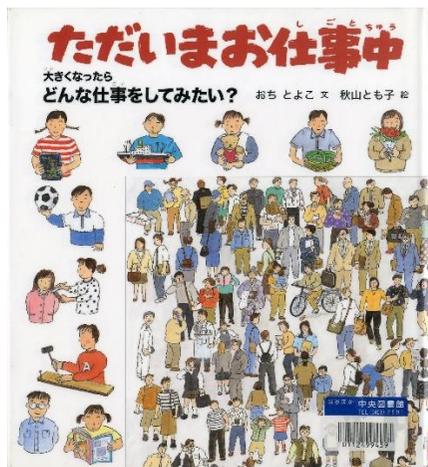
作 那須 正幹 / 絵 前川 かずお
ポプラ社

「ズッコケ三人組」とは、花山第二小学校6年1組のハチベエ、モーちゃん、ハカセのこと。本人たちは普通に学校生活を送っているつもり、だけどなぜかいつも事件が…。さあ、事件解決に向けて今日も行くぞ、ズッコケ三人組！

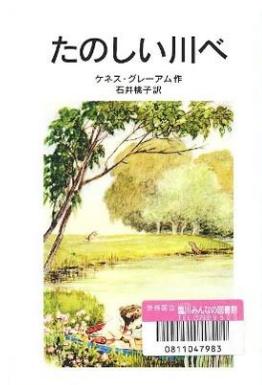


ただいまお仕事中

おお 大きくなったらどんな仕事をしてみたい？



おち とよこ 文/秋山 とも子 絵/福音館書店
あなたは大きくなったらどんな仕事をしてみたいですか。この本ではいろいろな職業が紹介されていて、たとえばケーキ屋さんだったら、ケーキさんの一日と、どうしたらなれるかがわかります。興味のある仕事が見つかるかな？

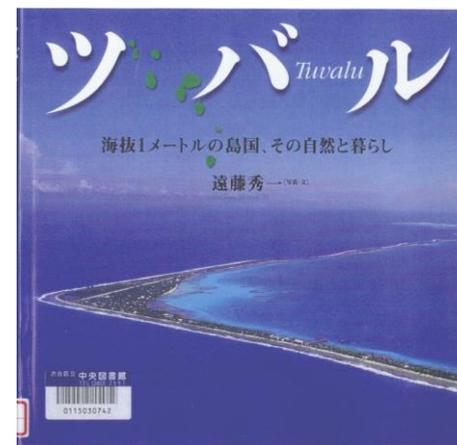


たのしい川べ

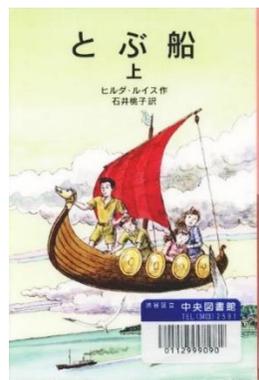
ケネス・グレアム 作/石井 桃子 訳/岩波書店
大そうじを始めたけれど、日の光の中の素敵な世界に出てしまったモグラ。川ネズミと出会い、遠足に出かけると、静かな川べで小さな事件が次々とおこります。

ツバル

かいぼつ しまぐに しぜん く
海拔1メートルの島国、その自然と暮らし



えんどう しゅういち しゃしん ぶん/国土社
遠藤 秀一 写真 文/国土社
みなみたいへいよう ちい しまじま くに
南太平洋に9つの小さな島々からなるツバルという国があります。熱帯の豊かな自然に支えられた夢のような島国が、地球温暖化のために100年後には海中に沈んでしまいます。自然と人々の暮らしを紹介し、この問題を考えていきます。



とぶ船

ヒルダ・ルイス 作/石井 桃子 訳/岩波書店
ピーターは不思議な店で、古い小船を手に入れた。それはなんと魔法の船。願いをこめると大きくなって空を飛び、どこへでも連れて行ってくれる。ピーターたちは別の時代への時間旅行も楽しんだ。ハラハラドキドキの大冒険。

ドリトル先生航海記

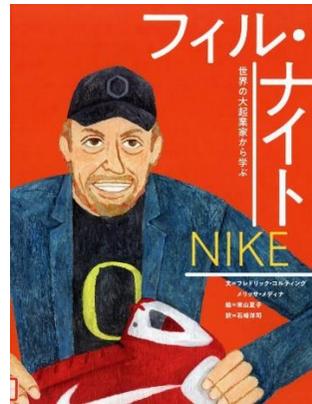
ヒュー・ロフティング 作 / 井伏 鱒二 訳
岩波書店



ドリトル先生の家には、たくさんの動物がいます。アヒルのダブダブ、オウムのポリネシア、犬のジップ…。そしてなんと先生は、彼らの言葉が話せるのです。ある日先生は、少年トミーや動物たちと共にクモサル島に向けて出発します。

ナイキ フィル・ナイト

世界の大起業家から学ぶ



文 フレドリック・コルティング メリッサ・メディナ
絵 米山 夏子 / 訳 石崎 洋司 / 岩崎書店

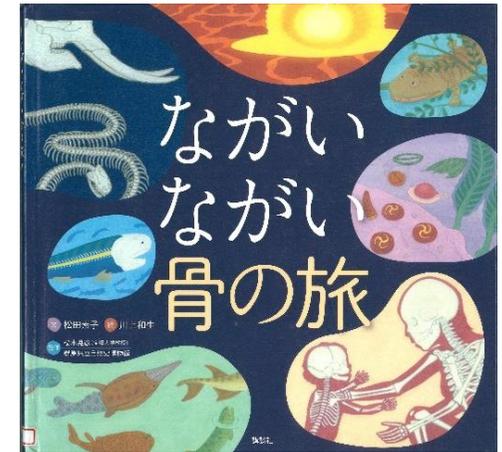
ナイキといえば、スニーカーやスポーツウェアについてのロゴで有名だね。ナイキの創設者、フィル・ナイトってどんな人？ どうしたらフィル・ナイトみたいになれるの？ 夢がかなっていく様子を、フィル・ナイトの生き方から学んでみよう！

* ながいながい骨の旅

文 松田 素子 / 絵 川上 和生

監修 桜木 晃彦 群馬県立自然史博物館 / 講談社

私たちの体の中にあたりまえにある骨。骨は、ながいながい旅をして、今こうして、私たちの体の中にあるのです。それは、約46億年前の地球のはじまりからの道のりです。さあ、その旅をたどってみましょう！

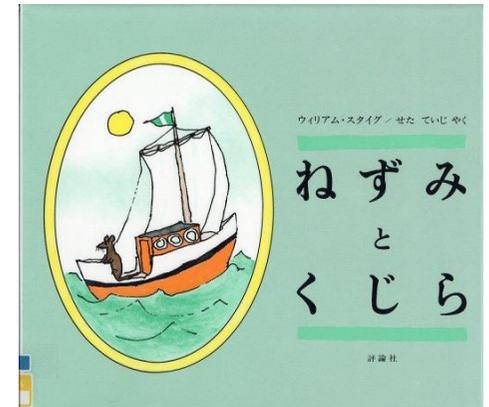


ねずみとくじら

ウィリアム・スタイク / せた ていじ やく

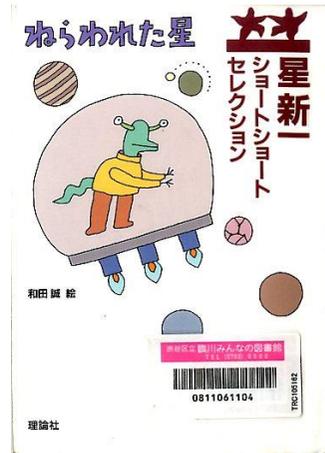
評論社

海辺に暮らすねずみのエーモスは、海にあこがれて手作りの船で船出しました。船旅を楽しむエーモスでしたが、ある晩、船から海に落ちてしまいます。おぼれていたエーモスは、通りがかったくじらのボーリスに助けられ、二人は友達になりました。



ねらわれた星

星新一／和田 誠 絵／理論社



ある日地球をおそい^ひにやってきたのは、金属質^{きんぞくしつ}のウロコ^{ぜんしん}で全身おおわれた宇宙人^{うちゅうじん}。彼らは、皮膚^{かわ}がどろどろに溶けるビールスを地球にまき散らした。しかし地球人たちは、慌てはすれど、なぜか誰も死なない…。皮肉^{ちきゅうじん}でユーモアあふれる短編集。

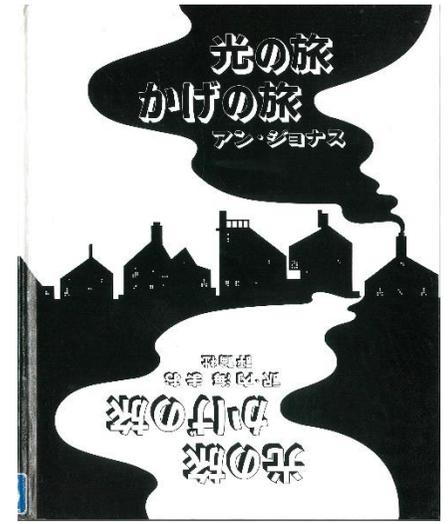
* パンダの手には、かくされたひみつがあった！



文 山本省三／絵 喜多村 武 監修 遠藤 秀紀／くもん出版
長年、ジャイアント・パンダには、5本の指の他に、皮膚の下に6本目の指のような骨があり、それがものをにぎる役割をはたしていると考えられていた。しかし、動物学者の遠藤さんが、その説をくつがえす、新たなパンダのひみつを発見した！

* 光の旅かげの旅

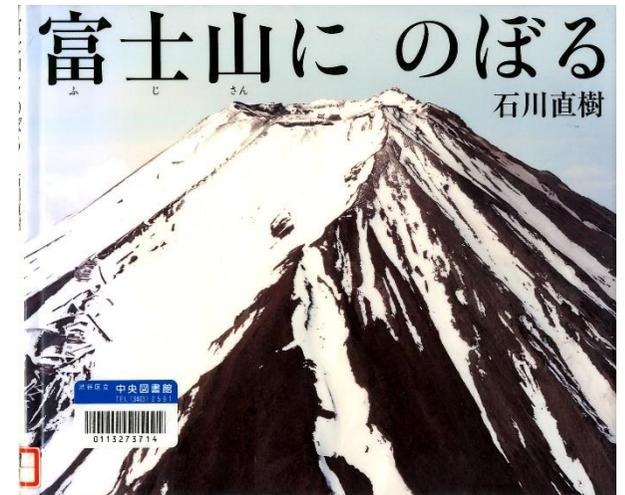
アン・ジョナス／訳 内海 まお 評論社



明け方に家を出発し、旅に出かけると、光とかげの世界にはいりこみます。本をさかさまにすると、違った風景の中でこんどは、帰路の旅となります。光とかげの旅に出かけてみましょう。

富士山にのぼる

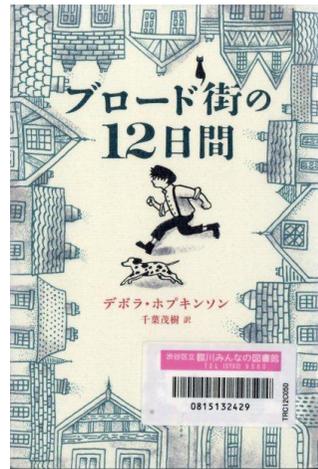
石川 直樹 教育画劇



だれもが知っている富士山。遠くからながめていても美しいが、ある冬の日、ぼくは富士山に登ることにした。10代から世界を旅し、エベレストなど世界の名だたる山々に登頂した作者が、何度登っても新しい発見のある富士山の魅力を教えてください。

ブロード街の12日間

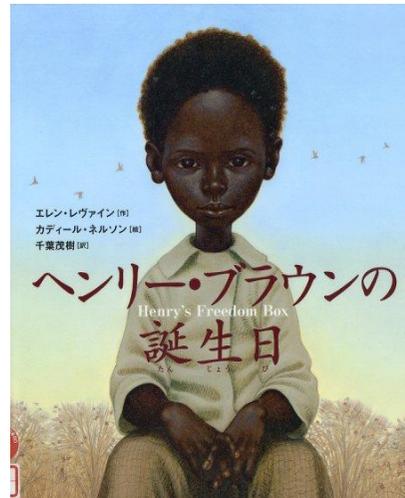
デボラ・ホプキンソン / 千葉 茂樹 訳
あすなる書房



ロンドンの下町ブロード街には、目に見えない死への病が…。「青い恐怖」は、いったいどこからやってきたのか？ 19世紀に起こったコレラという病気の大発生。その原因を突き止めるため、少年イールが走り回る！手に汗にぎる12日間の冒険です。

ヘンリー・ブラウンの誕生日

エレン・レヴァイン 作 / カディール・ネルソン 絵
千葉 茂樹 訳 / 鈴木出版



むかし人間が人間として扱われない時代がありました。肌の色が違うだけでモノとして売り買いされ、愛する家族とひき離されました。そこから逃げるためにヘンリー・ブラウンが考えた方法は、とんでもない事でした。

ぼくとベルさん 友だちは発明王

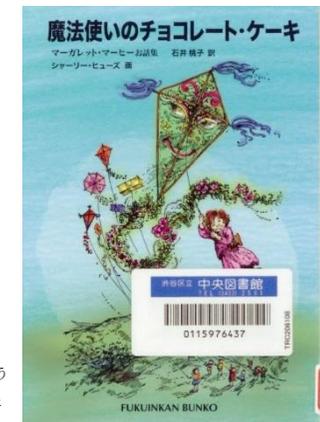
フィリップ・ロイ 著 / 櫛田 理絵 訳
PHP研究所



読み書きが苦手なエディは、勉強ができないと思われていたが、本当は算数が得意で頭の回転も速い。近所に住む発明王のベルさんは、年こそはなれていてもエディの良き理解者。エディの才能を見ぬき、前向きに進むアドバイスをくれた。

魔法使いのチョコレート・ケーキ

マーガレット・マーヒーお話集 石井 桃子 訳
福音館書店



魔法使いは町中の子どもをチョコレート・ケーキ・パーティーに招待しましたが、誰も来ません。仕方なく話し相手のリンゴの木に肥料でケーキを作り、友達になる木もたくさん植えました。それから何年もたったある日、森に子どもたちの声がして…。

マヤの一生

椋 鳩十 作 / 吉井 忠 画
大日本図書



マヤはたいへん利口な犬でした。そして、わたくしたち家族の大切な一員でした。戦争がもたらす、暗く悲しい運命に、人間と同じように巻き込まれていったマヤ。戦争は、こんな小さな命まで犠牲にしていっていったのです。

Mr. トルネード

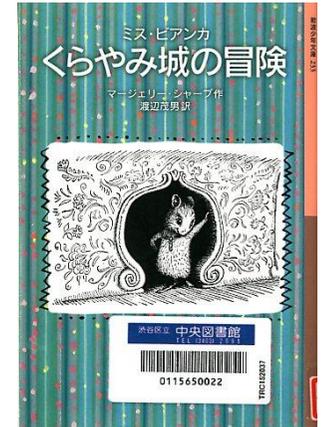
航空事故を激減させた気象学者 藤田哲也



今から約30年前まで、飛行機は何度も原因不明の墜落事故を起こしていました。この謎の墜落事故の原因を突き止め、その後の航空事故を激減させた気象学者がいます。32歳でアメリカに渡り、竜巻の研究に取り組んだ藤田哲也の足跡をたどります。

ミス・ビアンカ くらやみ城の冒険

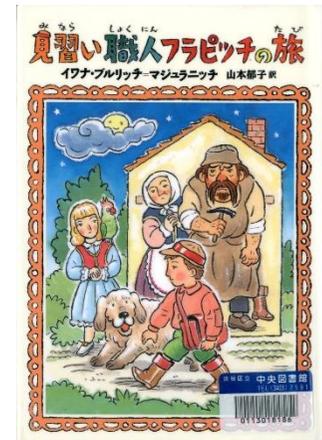
マージェリー・シャープ 作 / 渡辺 茂男 訳
岩波書店



美しい白ネズミのミス・ビアンカは大使館のぼうやにかわれているネズミでした。ところがある日、ネズミの「囚人友の会」からの要請を受け、囚われた詩人を助け出すことに！ミス・ビアンカは、仲間たちと共に冒険の旅に出發します。

見習い職人フラピッチの旅

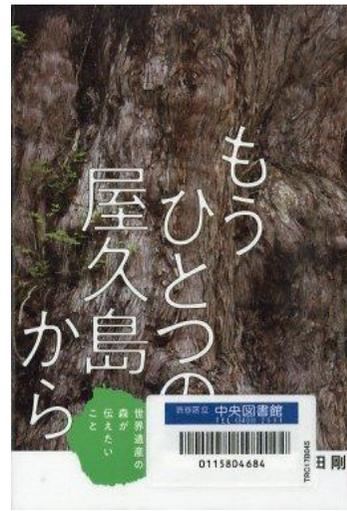
イワナ・ブルリッチ=マジュラニッチ / 山本 郁子 訳
小峰書店



靴屋の見習い職人フラピッチには、両親がいません。意地の悪い親方のもとで働いていましたが、あまりにひどい仕打ちに逃げ出し、旅に出ました。いったいどんな旅になるのでしょうか。さあ、みなさんもフラピッチと一緒に旅に出かけましょう。

もうひとつの屋久島から

世界遺産の森が伝えたいこと



武田 剛 / フレーベル館

世界自然遺産に登録され、樹齢数千年の屋久杉で有名な屋久島。著者は、猛反対する家族を説得して、新聞社の仕事を辞め、一家で屋久島に移住しました。ところが屋久島には、私たちが持つイメージとは全く違う、森林大伐採の歴史があったのです。

森のいのち

小寺 卓矢 文 写真

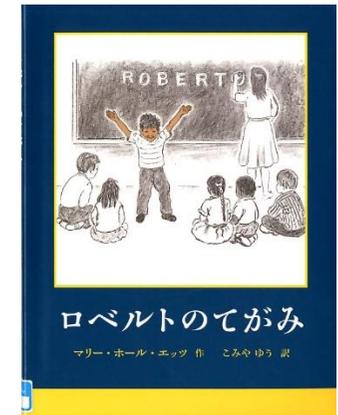
アリス館



森はしんと静まりかえっている。でも耳をすませば ほら—いのちの息づかいがきこえてくるよ。いくつものいのちがつないでいる、森という大きないのち。森の空気が体いっぱいにしみ込んできそうな写真絵本です。

ロベルトのてがみ

マリー・ホール・エッツ 作 / こみや ゆう 訳
好学社



ロベルトの家族はメキシコからアメリカへやってきました。家族の中で英語がわかるのは兄のマルコだけ。昼間一人のロベルトは、近所で悪いことをして叱られても、なぜ叱られているのかわかりません。近所の人は困ってお巡りさんに相談しました。

* 和ろうそくは、つなぐ

大西 暢夫

アリス館



西洋ろうそくとは違う炎を灯す「和ろうそく」。数少ない貴重な職人の手により、作られます。その過程では、ひとつの役割を終えた材料が、次の職人の手によって生き返るものもあります。多くの職人同士の知恵がつながって生み出された灯りなのです。